

## 【南九州地区納税貯蓄組合連合会会長賞】

### 当たり前

聖心ウルスラ学園聡明中学校

三年 榎本 志絆

八月一日、いつもより遅く起きて洗面所で顔を洗う。今日から待ちに待った夏休みのはじまりなのだ。八月二日、休みの日くらいは家の手伝いをしようとゴミ捨て場にゴミを持っていく。八月三日、塾。受験生だから今年の夏休みは勉強に追われそう。しかし、それは違った。水曜日と土曜日の午後、日曜日は塾が休みなので、八月五日には、隣の市まで電車で行き友達と祭りを楽しんだ。八月六日には、友達と公園でピクニックをした。八月十五日は、お盆で塾は午前中だけだったため、家族でプールに行った。次の日は図書館で一日中勉強を頑張った。

勉強ばかりでつまらない夏休みになると思っていたが、意外と遊べて受験生にとっては楽しい夏休みとなった。夏休みを楽しむことが出来たのは遊ぶとき送迎をしてくれる親、遊んでくれる友達はもちろんだが、そこには「税金」というものが関係している。

顔を洗うときに使う上下水道、家庭から出るゴミの回収と処理、塾に行くまでの道路や信号、隣の市まで行くときに使う電車や駅、友達とピクニックをした公園、家族で泳いだプール、宿題を頑張った図書館。他にも私たちが安心した生活を送れるようにしている消防や警察の活動、学校にある机といす、黒板。そのすべてに税金はつかわれている。

たしかに税金がなくなれば、ものは安く買えるし自分の好きな物は多く買える気がするが、そうはいかない。もし税金が無かったら、顔も洗えず、町はゴミだらけになり、ちょっと家を出るだけで事故に巻きこまれそうだし、簡単に遠いところに行くことは出来ない。公園やプール、図書館がなかったら、家にずっといることになり、受験生でなくても楽しくない夏休みになるだろう。

私が小学五年生の頃に税が八%から十%に引き上げられた。私は「国のためのお金はそんなないじゃないでしょ。」「嫌だな。」「くらいに思っていた。しかし中学三年生になった今では、「税金は国のためではなく自分たちのため。」という印象が強くなった。一方で、自分たちのためである税金を払わず、問題になる人もいる。それは税金によって支えられている事を身近に感じる機会が少ないからなのかもしれない。

税金は私たちにとって安全が当たり前の生活をくれているのだから、その事を一人一人が意識して、国民全員にとって税金を払う事が当たり前になってほしいと私は思うのだ。